

北大関西同窓会の皆さん並びに北大同窓生の皆さん！

2025年11月12日（土）、二水会が（一社）北大会館で開催されました。

11月二水会の報告をいたします。

講師：日下 大器 氏

テーマ：特許が承認された話

講師の日下大器氏は、阪神タイガースのファンで、今般の特許申請が承認された話はその野球観戦からふと思いついた三年前のことのことです。

阪神タイガースが1点差で負けた悔しい思いを今回の特許まで昇華させたわけである。

もっとも、普段から何かしら特許にならないか？と、常日頃頭の中では事象をこね回しているとのことです。

一点でも多かれば勝ちの野球ゲームだが、今回の特許では負けではあるが獲得した点数を勝ち点留め置き制度を提案することによって、日本のプロ野球で多くの資源（選手、スタッフ、施設など）を費やして獲得した点数のうち、負けた時無意味としていた点数を有効に利用する方法の提案で産業上有益でありかつ新規性もあるとして特許申請に踏み切ったものであり、「日本のプロ野球で各チームの勝敗を決める方法」という特許申請が出来たとのことである。その実際の活用方法は紙数の関係でカットしますが、なかなか気が付かないところに目を付けたのには驚きである。

一点差でも負けたチームが獲得した点数を活用する方法を考えたものである。

例えば、ソフトボールの試合やカーリングの試合などではギブアップのシステムがある。

点を取り合うスポーツでは、勝敗を決める方法が実に多彩である。ラグビーのトライとドロップアウトの点数の決め方、サッカーの点数の決め方とバスケットボールの場合など考えてみればきりがありません。特許庁はゲームは特許の対象として認めないそうですが、ゲームシステムはものによってギリギリ特許の対象になりうることで、日下氏によれば、今回特許取得ができたことは名誉なことであると考えています。

